

THE JAPANESE JOURNAL OF PSYCHODRAMA

Vol. 23, No.1 / December 2018

CONTENTS

Remarks
A consideration of somatic expression and self-image in role-playing...Ukita Tetsuji... 1
Remarks on the Special Articles
Introduction...Harumi Yoshikawa... 3
Psychodrama's possibilities and problems in education
-Focusing on the growing state of role-playing in moral education classes -...Hiroataka Hayakawa... 5
Effect and problem of using psychodrama on developmental use in educational situation.
...Gaku Tokita...13
Psychodrama at schools for special needs education...Akiko Takahara...21
Development of the moral lesson to think through the role-playing...Saori Kitagawa...27
Role-playing to practice in the classroom
"Special Activities" to develop a number of human relations ability - play a dream
...Hideo Maruyama...31
As the specified debater on symposium I ...Akemi Tuchiya...37
As the specified debater on symposium II ...Ken Komiya...43
Practice Studies
Psychodrama for chronically absent junior high students from emotionally disturbed classrooms
...Junichi Tanii...51
Book Review...61
Information...63
Announcement...71

Edited and Published by
Japan Psychodrama Association
(c/o Yokohama City University, Ukita Laboratory, 22-2 Seto, Kanazawa-ku, Yokohama, Kanagawa 236-0027, Japan)
President : Akemi Tsuchiya (Japanese Society for Psychodrama)
Editor : Harumi Yoshikawa (Tokyo University of Social Welfare)
Editorial Committee : Hiroko Ibaragi (Komazawa University)
Yoshie ogasawara (Psychotherapy Office TMS) , Junichi Tani (Japan Lutheran College)
Tosio Ohara (Kyoritsu Women' s University)
Akiko Takahara (Kumamoto University)
Kenji Moroe (Ange Psychiatric Clinic)
Masamichi Kawahata (Yokohama City University)
Satoshi Koga (Faculty of Human-Enviroment Studies, Kyushu University)

心理劇 第二十三巻 第一号 二〇一八年(平成三十年十二月一日) 日本心理劇学会

心理劇

THE JAPANESE JOURNAL OF PSYCHODRAMA

第23巻 第1号 / 平成30年12月1日 Vol.23, No.1, December 2018

巻頭言
ロール・プレイングにおける身体表現と自己イメージ...浮田 徹嗣... 1

特集 <教育と心理劇—その効果の光と影>
特集にあたって...吉川 晴美... 3
教育における心理劇のチャンスと危機 - 教科化される道徳での役割演技の現状と課題を中心に -
早川 裕隆... 5

<心理劇の活用と効果—教育場面での発展的活用を考える>
心理劇の活用の効果と課題—教育場面での発展的活用...時田 学...13
特別支援教育に関して...高原 朗子...21
役割演技を通して考える道徳科の授業展開...北川 沙織...27
教室で実践するロール・プレイング
個の人間関係能力を開発する『特別活動の時間』 “夢” を演ずる...丸山日出夫...31
指定討論の立場から I ...土屋 明美...37
指定討論の立場から II ...小宮 健...43

実践報告
公立中学校の相談学級における不登校生徒を対象にしたサイコドラマ実践...谷井 淳一...51

書評
「人間関係の理解と心理臨床—家庭・園・学校・施設・職場の問題解決のために」
(吉川晴美・松井和子編著)...伊東 正裕...61

情報
西日本心理劇学会第43回大会...高橋 秀和...63
日本集団精神療法学会第35回大会...長南 拓馬...67
日本関係学会第40回大会...小里 國恵...69

会報...71

日本心理劇学会
JAPAN PSYCHODRAMA ASSOCIATION

執筆要項

- 論文の内容として、以下の事項を遵守すること。
 - 調査研究を行う場合は、調査協力者に事前にインフォームド・コンセント（説明と同意）の手続きを取っておくこと。
 - 事例研究や面接調査（インタビュー）の場合は、対象者または調査協力者から同意の署名を取らなければならない。また、論文に記載する情報は必要最低限としてプライバシーに十分配慮しなければならない。関係機関に倫理委員会がある場合は、承認を得ていること、およびこうした倫理面への配慮を論文中に明記すること。
 - 「心理劇」の誌上に掲載される投稿論文は未発表のものであること。他の学術誌や大学等の紀要にすでに投稿したものと類似した論文や、本来は一つであるべき研究内容を幾つかに分けて「心理劇」に継時的に、あるいは他の学術誌に投稿することは二重投稿となるので投稿できないこと。
- 論文の内容は未公開のものに限る。事例提示の場合は、記載する情報は必要最小限とし、プライバシーに十分配慮すること。
- 論文の長さは、原則として原著・総説・事例研究・実践報告は図、表、写真を含めてA4判（40字×40行）用紙11枚、短報・資料・その他は8枚を上限とする。上限を超えても掲載が認められることがあるが、その場合は原則として超過分の制作費は投稿者の負担とする。
- 原稿は横書きで、原則として常用漢字・現代かなづかいを用い、数字は算用数字を用いること。図、表、写真は必要最小限にして別紙に書き、本文中にその挿入箇所を明示すること。本文にはページ数をつけること。
- すべての投稿論文には、表題、著者名、所属機関名、論文の種別、連絡先住所、電話番号、Eメールアドレスを記載し、かつ表題、著者名、所属機関名については英語表記を添え、本文に添付する。原著および事例研究には、英文要約を必須とする。英文要約は100～200語で作成し、5項目以内のキー・ワードをつけること。英文要約およびキー・ワードについては日本語訳を添えること。英文は英語の専門家の校閲を経ていること。
- 外国人名、地名に原語を用いる以外には、記述中の外国語になるべく訳語をつけること。
- 引用文献は本文の最後に著者名のアルファベット順に一括して記載し、本文中では、著者名（発行年）で引用すること。
 - 文献の記述形式は、雑誌の場合は、著者名、公刊年度（西暦）、論題、誌名、巻（ゴチック）、号、記載頁の順序による。単行本の場合は、著者名、発行年度（西暦）、書名、発行所の順とする。ただし編者と担当執筆者の異なる単行本の場合は、該当執筆者名を筆頭にあげ、以下発行年度、編者名、書名、発行所の順とする。
 - 同一著者で2種以上の文献がある場合には発行年度順とし、さらに同年度に同一人の2種以上の文献がある場合には1990a、1990bのように区別して記載すること。
- 校正は、初校を著者、再校以降は編集委員会で行う。
- 投稿論文については、執筆者に別刷り20部を贈呈する。それ以上は執筆者の負担とする。
- 本誌に掲載された論文の原稿は、原則として返還しない。
- 投稿に際しては、投稿原稿とは別に、著者名、所属機関名、謝辞を削除したコピー2部を添え、書留郵便（レターパック可）にて編集委員会宛に送付すること。郵送とは別に、投稿原稿をEメールの添付ファイルとして送ること。

編集委員

委員長：吉川 晴美

副委員長：茨木 博子

委員：小笠原 美江 小原 敏郎 川幡 政道 古賀 聡 高原 朗子 谷井 淳一
諸江 健二

編集規定

- 本誌は日本心理劇学会の機関誌として年1巻発行する。
- 本誌は、原則として本学会会員の心理劇に関する論文の発表にあてる。ただし、非会員からの投稿論文で本学会に寄与するものは、掲載が認められることもある。
- 本誌には、特集、原著、総説、事例研究、実践報告、短報、資料のほか書評、海外文献紹介、情報、会報などの欄をもうける。
- 特集、書評欄は、原則として編集委員会の指定した依頼原稿によって構成する。
- 原著論文は、心理劇あるいはその関連領域における未公開の独自性ある論文で、学術的考察のなされているものとする。
- 総説は、心理劇あるいはその関連領域における特定の主題についての学問的動向を見渡し、著者独自の論考がなされている論文とする。
- 事例研究は、心理劇あるいはその関連領域の臨床・実践活動における事例について考察のなされている論文とする。
- 実践報告は、心理劇あるいはその関連領域の臨床・実践活動で得た知識、経験、成果などを報告する論文とする。
- 短報は、心理劇あるいはその関連領域における萌芽的研究で、今後発展が期待できる研究を手短にまとめたものとする。
- 資料は、心理劇あるいはその関連領域における掲載する意義があると考えられる実践、調査、事例、理論等に関するレポートとする。
- その他必要に応じ、編集委員会での検討により論文の種類を新たに設定することがある。
- 投稿論文は編集委員会によって審査され、その掲載の可否が決定される。なお、編集委員会は、会員もしくは会員外に審査協力を依頼することがある。
- 本誌の編集は、編集委員会の責任のもとに行われる。
- 原稿の印刷に特に費用を要するものは、執筆者の負担とする。
- 本誌に掲載された記事の著作権は、日本心理劇学会に帰属する。著者本人を除き日本心理劇学会の許可なく記事を複製および転載することはできない。

心 理 劇 第23巻 第1号 編集 日本心理劇学会編集委員会

2018（平成30）年12月1日発行 発行 日本心理劇学会

〒212-0054 神奈川県横浜市金沢区瀬戸22-2
横浜市立大学 浮田研究室

E-mail ukita@yokohama-cu.ac.jp

FAX 044-511-5261

製作 公益社団法人やどかりの里
やどかり印刷

〒337-0026 さいたま市見沼区染谷1177-4
